

第9回 日本語スピーチ大会 2013

場所: かながわ県民センター 301号室

開催日: 2013年11月17日(日)

スピーチ草稿集

氏 名	テーマ	出身国・地域	所 属
張 興偉	私の見た日本の高齢社会について	中国 四川省	横浜国立大学
Talha Mohamed	母国スーダン	スーダン	横浜国立大学
陳 海鋒	中国の結婚文化	中国 広東省	横浜国立大学
フェルナンド・ルイズ	日本で作った思い出	ブラジル	横浜国立大学
干 泳	日本で生活を始めて	中国 北京市	ARC Academy
関根ヘレン	好きな人	香港	社会人
モシ・ムワスイ	チップとサービス	タンザニア	ゲストスピーカー

NPO法人 留学生と語り合う会 (RKK)





日本人と留学生の交流会



テーマ「私の見た日本の高齢社会—中国と比較して」

張 興 偉 （中国・四川省出身） 横浜国立大学



皆さんこんにちは。只今ご紹介を頂いた張興偉です。中国四川省の出身です。現在横浜国大大学院博士コース3年で、専攻は国際経済法学です。本日このような機会を作って頂き、誠に有難うございます。

まずスピーチのテーマをご紹介させていただきます。『私の見た日本の高齢社会—中国と比較して』です。日本で出会った高齢者達と中国の高齢者達の生き方を比較して、驚いたことを三つお話いたします。

一つ目は高齢者達の勉強意欲の事です。

日本には、退職後大学に戻って勉強している人が多くて驚きました。私が通う国大の大学院にも、そういった方々がおられます。ある調査によると、3割の人は老後「生涯学習に取組たい」と答えます。大学の他、自分で外国語や専門知識を学んでいる人も多いです。中国の高齢者達はどうか？「老年大学」で絵画や書道などを勉強している人はいますが、人数は少ないです。一般的に、お茶を飲みながらお喋りしたり、トランプや麻雀をしったりして遊んでいる人が多いです。生涯学習の意欲がまだ高まっています。

二つ目は高齢者達の健康作りの事です。

毎日ジョギングしているお年寄りの姿をよく見かけます。そして、テニス、プール、ハイキング等の場にも、高齢者達が集まっています。先ほどと同じ調査によると、半数以上の高齢者は、積極的に健康管理に取組たいと考えています。日本は世界一の長寿国ですが、その理由は何故でしょうか？先進国で医療水準が高いからでしょうか？勿論それもあるでしょう。しかし、何よりの理由は日常的に体を鍛えていることではないかと私は思います。同世代の中国都市部の高齢者達は、高血圧、高脂肪等による病気が多いです。長期的な運動不足や全く健康管理のない生活をしている人も沢山います。60代、70代になると病気だらけと言う人も少なくないです。最近、太極拳、水泳、広場踊りのようなスポーツを楽しむ高齢者が増えつつありますが、日常の健康管理意識を持っている人はまだ少ないです。

三つ目は高齢者達の意識と介護の事です。

毎日出会った日本人のお年寄り達は、スーパーに行く時も、病院に行く時も人に頼らず一人で行動します。一生懸命何人も子育てをしたのに、自分が老いた時、どうして子供に頼らず生活しているのか、理解しにくいです。

中国では、都市と農村の事情が違いますが、都市部の定年は、現在男性60歳、女性55歳です。その頃ちょうど子供が結婚適齢期を迎え、やがて孫が生まれます。若い夫婦は共働きのため、育児や家事は親が手伝うのが普通です。60歳を過ぎて、再び子供と一緒に住むことも珍しくありません。ただ手伝わされることなく、子供や孫と一緒に生活することを心から喜び、待ち望んでいるお年寄りが多いです。そして、老後自分の子供からの介護が望ましいと考えている高齢者も多いです。

それは日本と比べて大違いです。日本の高齢者の意識調査によると、子供や孫との付き合い方としては「時々会って食事や会話をする」程度の方が望ましいと考えている人が多いようです。

これから中国も速いスピードで高齢化社会へ進んで行きます。一人っ子政策の影響で、子供と離れて生活しているお年寄りもどんどん増えています。高齢化社会の中国でどのような対策を取るべきかはとても重要な課題です。

日本の高齢者のように、年を取っても、心はまだ若いと信じていつも頭を使って勉強すれば、鈍化も遅く

、知識も増えます。そして、早く健康管理を行って、元気で長生きできればもっと楽しいのではないかと思います。子供と同居しないお年寄り達は、ボランティア活動や外国語の勉強、旅行、啓蒙活動などをしたいと思います。

以上、簡単に日中の高齢者達の生き方の比較についてお話いたしました。皆さんは中国の高齢者達の生き方についてどう思いますか？驚きましたか？

異文化の人々がコミュニケーションする時、相手方の立場に立ってお互いに理解することがとても大事なことです。日中関係も緊張していますが、両国もまず相手国の事情をよく分かって、その上お互いに理解しながら話し合うことは、冷え込む関係の改善にも役に立てるのではないかと私は思います。

ご清聴ありがとうございました。

テーマ「母国 スーダン」

Talha Mohamed (スーダン出身) 横浜国立大学



スーダンは2012年に北と南に分かれました。

スーダンはアフリカの北東にあります。エジプトの南です。

初めはイギリスの植民地（しょくみんち）でした。1956年に独立しました。

スーダンの国旗です。

1970年にアラビアの国ぐにと一緒に国旗をかえました。

- 緑色はアラビアの意味。- 赤は独立への戦い。- 白は

平和。- 黒はアラビアのスーダン人です。

スーダンの地理（ちり）です。

スーダンはアフリカの中で2番目に大きいです。カルトムはスーダンの首都です。

スーダンは4つの文化があります。

人口3700万人。言語：アラビア語 英語

アラビア人は70%です。

民族（みんぞく）：70% Arab, 20% Nubia, 6% Beja, 3% Foreigners

宗教（しゅうきょう）：97%ムスリム, 3%クリスチャン。

スーダンの服：

トウブはカラフルな服です。女性の普段着（ふだんぎ）です。

ジャラビヤは男性の服です。

文化：

ヒンナというペイントを女性はします。パーティや結婚式のときです

結婚式はまる二日間します。一日目はフォーマル、二日目は親族や友人と祝います

野生（やせい）動物公園：

国立自然公園には野生の動物がたくさんいます。二つのエリアがあります。

観光（かんこう）：

北の砂漠にはピラミッドがあります。

東は岩山（いわやま）です。

中央はナイル川があり、大きな町や農業（のうぎょう）がさかんです。

西は野生と自然がたくさんあります。

食べ物と飲み物の風俗（ふうぞく）：

スダーンは豚肉を食べません。

食事は12時、18時、22時にとります。

コーヒーはスダーン人が好きなドリンクです。

私です。

トウブをきています。28歳（さい）です。パイオメディカルエンジニアです。

日本で医療（いりょう）を習ってスダーンでかつやくします。横浜国立大学博士かていです。

家族：7人の家族です。5人の兄妹です。兄は日本の東京大学にいます。

ありがとうございました。

テーマ「中国の結婚文化」

陳 海鋒（中国・広東省出身）横浜国立大学



世界の結婚文化は様々があります。

たとえば：エジプトの結婚式は ほとんど準備がいりません。なぜならば エジプト式の結婚式は 飲み物を飲みながら 踊るだけだからです。インドの結婚式は、自宅から披露宴の会場までを歩いて進むパレードがあります。パレードには マーチングバンドがついており、楽器の演奏とともに 踊りながら行進していきます。

それで、中国においては、どんな結婚式があるだろう

と思いますか？

中国では、56 民族があります、伝統の結婚文化も大きな差別があります。例えば：雲南省イー族のキャプチャ結婚式、広西省チワン族の新郎が新婦を背負って帰ります。

中国人口の90%を占めている漢族の 伝統結婚式では、伝統の結婚式というと、基本的には、六ステップがあります。

「説媒」、「問八字」、「換庚」、「報期」「迎親」、「回門」です。

1、まず、「説媒」というと、子供がまだ10歳前後に、親は「媒人」という仲人に依頼して、自分の子供が将来結婚して、幸せになるように、「門当戸対」と言われる家柄がつりあう相手を探してもらいます。男性の親は、男性と女性のことが適当だと思ったら、男性の親は 仲人を通して、女性の親に礼品を届けると共に、婚姻関係の話を伝えます。女性の親は結婚の話に興味があれば、礼品を受け取って、次のステップ「問八字」へ進みます。

2、「問八字」のステップでは、仲人は男性と女性の生年月日、時間と天支などを聞いて、それを占い師に見てもらって、占い師は男性と女性の運命や「相性」を占います

3、「換庚」というのは、男性と女性の「相性」が合う結果が出たら、男性の親は仲人を通して、女性の親に いつに、どんな贈答品を送ったほうがいいですかを聞いて、そして、約束の日に贈答品を送ります。この同時に、赤い紙に書いた 男性と女性の「八字」を交換するということは、「換庚」と呼ばれます。この「八字」の交換により、正式的な婚約が成り立ちます。

4、「報期」では、両家の婚約が成り立ったあと、早速に結婚式の準備に入って、男性の親が占い師に頼んで、「八字」に合わせる吉日を算出した後、女性の家族に報告することは「報期」と呼ばれます。

5、時間を決定した後、いよいよ迎えに行くことになります。このように新郎が 新婦を迎えに行く儀式

は、「迎親」と呼ばれます。

「迎親」の当日、新婦は真赤の結婚衣装をまとい、赤靴をはきます。新婦は 新郎の家に行く前、自分の両親の前にひざまずいて、頭を地につけて、養育の恩を感謝します。

「迎親」における最も重要なことは、「拝堂成親」という儀式です。迎えた後、新郎の家族の「(祠) 祠堂」、もしくは家の中央に、 新郎新婦は地面にひざまずいて、「一拝天地」と声をかけると、新郎新婦は 神様を拝みます。次に「二拝高堂」と呼ぶと、二人は新郎の両親に拝みます。最後は「夫妻対拝」の声に合わせて、新郎と新婦は お互いに向かい合って礼をします。その後、盛大な宴会を行い、新婦は部屋に入ると、新郎は親戚や友人と一緒に飲んで食事します。

6、結婚式が終わった後、三日目の朝を迎えると、新婚夫婦は 男性の先祖を拝んで、新郎が新婦に付き添って、礼品を持って、新婦の実家に挨拶に行く儀式は「回門」と呼ばれます。

ここまで、6 ステップの伝統の結婚儀式はすべて終了です。しかし、現代の結婚式では、中国の改革をきっかけとして、自由主義の思想が高まり、自由恋愛結婚になっています。現代結婚の文化は 伝統の文化もあり、西洋の文化もあり、基本的に新婚の夫婦のお好みで決めます。また 結婚式には、食事の宴会を中心にしてやっています。

以上、中国の伝統結婚式はどう思いますか。また、日本の結婚式はどんな感じですか、私も一度日本の結婚式に参加してみたいと思います。私の発表内容は以上でございます。

テーマ「日本で作った思い出」

フェルナンド・ルイズ (ブラジル出身) 横浜国立大学



皆さん、こんにちは！本日お休みのところ RKK のスピーチ大会にお越しいただき、誠にありがとうございます。私はブラジルから参りましたフェルナンド・シルヴェイラと申します。横浜国立大学国際社会科学府に所属して、経済学を専攻しております。どうぞ宜しく御願います。

皆さん、異文化に挑戦なされたことがありますか。おそらくいろいろなことを学ばれたと思います。私は、昨年の4月から2度目の日本への挑戦を経験しています。私は日本で過ごした経験、日本の印象及びこれからの挑戦などに

についてお話しします。

まず7年前の留学について話したいと思います。2006年にロータリークラブの青少年交換留学プログラムに参加し、愛知県大府市に約1年間滞在させていただきました。私の母国のブラジルから見ると、地球の反対側にある日本へ留学することは自分にとって当時の人生における最大のチャレンジでした。家から離れ、一人で頑張らなければならないと心配していました。

最初の3ヶ月間に、日本語が全く話せなくて、日本の高等学校を通うのは非常に難しかったです。次第に生活に慣れ、日本語も少し話せるようになり、多くのことを学びました。強く感じたのは、日本の方々が人間関係を大切にすることです。例えば学生同士でも、年が近いのに先輩／後輩の意識が強いです。それに、日本では「すみません」や「ありがとうございます」という言葉をよく耳にします。店にお客様が来店すると店員さん達は大きい声で『いらっしゃいませ』と言って、客に対してとても常に丁寧な対応をしてくれます。

あの時、日本に来た留学生として私はこのように日本の社会の優しさを感じましたが、ホストファミリー

一とそういう話をしていたら昔の日本人はもっと優しくたと聞きました。私は日本の人達が優しさを失わずに、これから私のような外国人も含めてますます多くの人達に対して優しい社会を持続してほしいと思います。

先ほどお話したように昨年の4月から私は二度目の日本への挑戦を経験しています。今回、カルチャーショックを感じずに、大学生活や一人暮らしにも早く慣れました。一方で日本語がまだ難しく専門用語をもっと勉強しなければなりませんと思っています。文部科学省の奨学生として日本とブラジルの貿易を研究するつもりです。歴史的な面から見れば両国が長い関係があるにもかかわらず、貿易の面であまり上達してありません。近年、ブラジルが経済的に成長しているので、これから日本に対してたくさんのビジネスチャンスがあると思います。そういう機会を通じて、両国の貿易関係を改善するための対策を見つけるまで頑張りたいです。

最後になりますが、来たる2014年の6月12日から7月13日にわたって、ブラジルでサッカーの祭典「FIFAワールドカップ」が開催されます。日本も5大会連続5回目の出場が決まっています。さらに、16年にはリオデジャネイロで夏季オリンピック・パラリンピックも開催されます。南米大陸で開催される初五輪には、おそらく大勢の日本人がブラジルまでいらっしゃってくださると思います。その時に、私は日本とブラジルの架け橋になり、大いに協力したいと考えています。

私は日本で過ごした経験についてお話をしました。これで終わります。質問あれば是非聞かせてください。

テーマ「日本で生活を始めて」

干 泳 （中国・北京市出身） ARC Academy



皆さん、おはようございます！私はユヨンと申します、愛称はカレンです、北京からまいりました。どうぞよろしくお願いします。

私は北京大学で経営学を勉強しました。大学院をおわってから、cofcoという食品の会社に入り、ワインの関係の仕事をしていました。

私は ワインがとてもしきなで、仕事がおもしろくて ずっと その会社に勤めていました。

去年5月 私の主人は 仕事で日本駐在となり 日本に来ました。そのときから、私は将来主人と一緒に 日本に住むことを考えました。

そして 日本の文化や 伝統などを体験しようと思いました。

それで 今年2月 中国での自分の仕事をやめてから 日本に来ました。それから 日本語の勉強を始めました。

今 私は 日本に住んで 8ヶ月になりました。日本の文化を理解するために 日本語を勉強しています。毎日 日本語を勉強したり、ときどき 主人や友達と 旅行したり、料理教室に参加したりしています。仕事をしていないのに 毎日忙しくて 時間がたつのが とても 速いです。

でも いままでに いろいろない思い出を作りました。春の花見とか、夏の花火とか、富士山の登山とか 忘れられない経験をしました。

春には 日本に来たばかりで 上野公園や 新宿御苑や 隅田公園など いろいろな場所へ花見に行きました。

人が多かったですが 桜がとてきれいだと思いました。桜の下で 人がすわって、お酒を飲みながら、

花見をしていました。中国にはこういう習慣はないので とても面白かったです。

日本では 夏には たくさんの花火大会やお祭りがあります。花火大会で、一番有名なのは 隅田川花火大会です。

それで 私は友達 と一緒に 必ず 行こうと思っていました。その日 皆で よく見える場所が取れるように 早くから 隅田公園へ行って、まって いました。

7時に 花火が始まりました。皆でとても盛り上がりました。でも、始まってから 15分ぐらい後で 急に 雨が降ってきたため花火大会を中止しなければなりませんでした。

一番有名な花火大会を全部見ることはできませんでしたが、とても忘れられない体験ができました。その後 神奈川花火大会も見ることができたのでよかったです。

それから 私は友達に富士山にのぼるようにさそわれました。友達の話によると 一年のうち2ヶ月しか富士山に登れないそうです。それに 最近 富士山は世界遺産になりました。

それで、私は 体力がありませんのに ぜひ富士山に登りたいと思いました。今年の夏に 主人と友達と 4人で富士山の登山に行きました。

午前11時に バスで五合目について登山が始まりました。はじめは 皆元気で楽しんでいました。登りながら 写真をとったり しゃべったり 観光したりしていました。

でも 七合目ぐらいから 高度が高くなったので 皆疲れて 静かになりました。10分ぐらいのぼった後で 毎回5分ぐらい休みました。特に 私は高山病にかかってしまい、頭が痛くなりました。やっと 午後5時ぐらいに 八合目に着きました。その日は 山小屋に泊まりました。でも その小さい小屋に 100人ぐらいがとまっていたので、空気がぜんぜん足りませんでした。私はあまりねられませんでした。

夜中の1時に起きて 体調がもっとわるくなりました。鼻血が出たり げろげろはいたり 頭がもっと痛くなりました。

主人と友達はとても心配したので 私の安全のために やめて帰るようにいいました。でも 私は 頂上まで登ることを決めました。何とか頑張って やりとげたい と思いました。

そして 最後の登りがはじまりました。まよなかで 高度も 高かったので とても寒かったです。それに 風も強く空気があまりありませんでした。私は10歩歩いたあとでその都度10秒ぐらいやすまなければならませんでした。

2時間後に やっと 山頂について、皆とても盛り上がりました。でも 私は全然 動けませんでした。

そこで1時間ぐらい 待った後 ついに 日の出を見ました。言葉に表せないくらいすごいきれいで感動しました。大変でしたが登ったかいがありました。

今 日本の生活に段々 慣れてきました。将来 日本語が上手になったら 日本でもっといろいろな経験をしたいです。大学院で マーケティングやワインの関係の勉強をしたり 日本の文化の本を読んだり日本のいろいろなところを旅行したりしたいです。

ほかに 生け花とか、茶道とか日本の料理とか 日本の文化について 体験したいと思っています。

そして いつか くへ帰って 友達に日本の文化を紹介したいと思っています。以上で私のスピーチを終わります。ご清聴ありがとうございました。

テーマ「好きな人」

関根ヘレン

(香港出身)

社会人



皆さん、こんにちは、

皆さん、好きな人がいますか。はい、います。どなたでしょうか。お孫さんか、奥さん、ご主人。どうして好きですか。多分皆さんそれぞれに違うでしょう。

私が好きな人はどんな人物かというと、男性です。彼はイケメンで、真面目な人です。彼の性格は明るくて、子供にも年輩の人にも好かれていました。それは私の父です。

父は自分の事ではとても儉約家でした。でも、私たち子供のためには、絶対に節約しなかったし、いつも贅沢でした。私たちが子供の時、毎週土曜日に父は仕事が終わった後、海辺の店でいろいろな海鮮を買って持って帰ってきたことを思い出します。そのころいつも、私は二階の出窓から父が帰ってくる姿を見て、大きな声で家族に知らせました。母は私の声を聴くと急いで台所に洗い桶を何個か準備しました。父は笑顔で両手にたくさん海鮮を持って帰ってきて、「重い、重い」と言って、海鮮を置きながら「今日の海鮮はとても安くて新鮮で、買わないと損だ、皆、今晚は食べ放題だ」と言いました。兄と二人の姉と私はすごく喜んで手をバチバチとたたきました。両親は二人で一生懸命に料理を準備し、私たち子供10人は、大きいテーブルに座って遊んで待っていました。やっと美味しい料理ができて私たちはわいわい、おしゃべりしながら特別大きな蝦蛄や蟹やエビなどをいっぱい食べました。

それから、父の親戚は大勢いましたので、父の休みの日には、私の一家はよく伯父さん、伯母さんの家へ遊びに行きました。私たち子供は親戚に行くとおいしいお菓子がたくさん食べられるのでとても楽しみでした。

父は子供たちの勉強のことは一切心配しませんでした。私たち子供は学校から帰るとすぐ自分たちで宿題を済ませてから、家の前の公園で遊んだのです。でも、その後には必ずラジオを聞きながら母の内職の手伝いをしました。

教育に関して、父は、学校の教育も、もちろん大切だが、躾も重要だと私たちによく言いました。だから、私たち子供の日常生活によく注意していました。例えば、知っている人に会ったら必ず挨拶するように。もし、両親がいない時に知っている人に会い、挨拶をしなかったことが両親に分かったら、罰としてご飯を食べさせてもらえないうえ、小遣いももらえませんでした。子供にとって、本当に大変なことでした。でも、子供の成長のために必要な躾だったのでしょう。

父の、いつもにこにこしている笑顔を忘れることができません。父はどうして人によく好かれていたか、実は父の葬儀の時に父の友人から彼は生活に困っている親戚とか友達をよく助けていたと聞きました。今、私は結婚して幸せな家庭を持てたことと貴方の娘に生まれて本当によかったと言うことに感謝しています。天国のお父さん、ありがとね。

テーマ「チップとサービス」

モシ・ムワスイ（タンザニア出身） ゲストスピーカー



タンザニア人の私と日本との出会い。それは20年以上前、小学生の時に通っていた、柔道と空手の道場です。そこでは、日本の礼儀を重んじた挨拶や、「いち、に、さん！」と日本語の掛け声で稽古することも、子ども心にとてもわくわくしました。そして、日本人の先生との触れ合い、これらが私が日本を好きになるきっかけとなりました。

タンザニアは、キリマンジャロコーヒー、サバンナと野生動物、マサイ族などで知られています。また宝石、天

然ガス、石油などが豊富である一方、発展途上国として、たくさんの国際機関の職員が暮らしています。彼らの多くは欧米の出身ですが、海外青年協力隊のように、日本から来たボランティアの方もたくさんおり、外国人の存在は自然なことです。

私にも欧米の友人がたくさんいます。しかし、小学生の時に会った、日本人の柔道の先生との思い出は特別でした。それから10年以上経って出会った日本人女性が私の妻になったことも、それがあったからかもしれません。

日本に住み始めた時、「日本は安全ですか？」とよく聞かれました。もちろん「はい、安全です。」と答えました。日本は夜遅い時間でも外を歩けるし、電車で物を忘れても見つかる可能性が高い。買い物の値段は表示通りだし、おつりも正しくてびったり。でも、しばらく住んでから、それとは別のことで安全さの理由を見つけました。それはチップが無い、ということです。

実はタンザニアもチップ制というわけではありません。でもチップを払えば、いい待遇が受けられるという、暗黙の了解があります。日本の場合はチップが無くても、どこへ行っても笑顔で「いらっしゃいませ」と迎えてくれ、サービスを受けている間もずっと笑顔。そして最後にお辞儀をしながら「ありがとうございました」と言ってくれます。この日本のおもてなしに初めて触れたとき、私は本当にびっくりし、そしてとても感激しました。

チップを払うかどうかなんて、ささいなことに見えるかもしれませんが。チップが文化として認められているアメリカやヨーロッパのようなところもあります。しかし私は、この習慣が、社会的、文化的に大きな影響を与えていると思うのです。なぜなら、チップとは、サービスを受けるために払う余分なお金であり、チップがないと良いサービスを受けられない社会は、100%安全とは思えないからです。

チップを期待するということは、給料に満足していないということです。給料に満足していない人は、チップなどで、少しでも多くのお金を手に入れようと考えます。その結果、ごまかしたり、だましたり、そのうち犯罪に手を染めることにもなりかねません。それがビジネスなどの賄賂にもつながっているのではないかと、私はそう感じています。

日本はとても成功した国です。チップを必要としない文化と共に、日本の安全さ、サービス、おもてなしの心が世界の多くの国に広まり、真似されればよいと思います。それによって、世界がより安全に、より平和になることを、私は期待しています。

ご清聴、ありがとうございました。

私たちは：

留学生が留学を終了したとき、振り返って、日本に来てよかったと回想してもらえよう、できる範囲で留学生を支援します。このことにより、親日家が増えることを期待します。

私たちのモットーは：

みんなで
少しずつ会の
運営に参加しながら
留学生がハッピーになるよう
できる範囲で
楽しくやることです。

NPO 法人 留学生と語り合う会 （RKK）

Ryugakusei to Katariau Kai (RKK)

Relationship and Kindness are the Kings of Peace

Friendship Association for International Students

and Japanese Volunteers